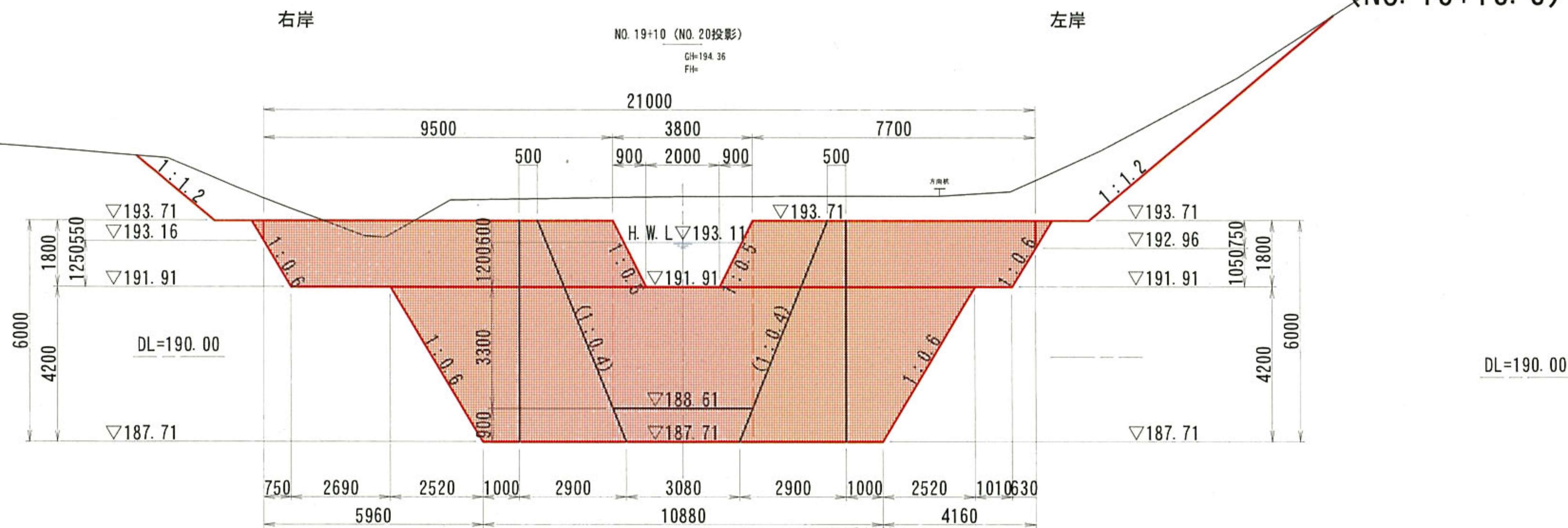


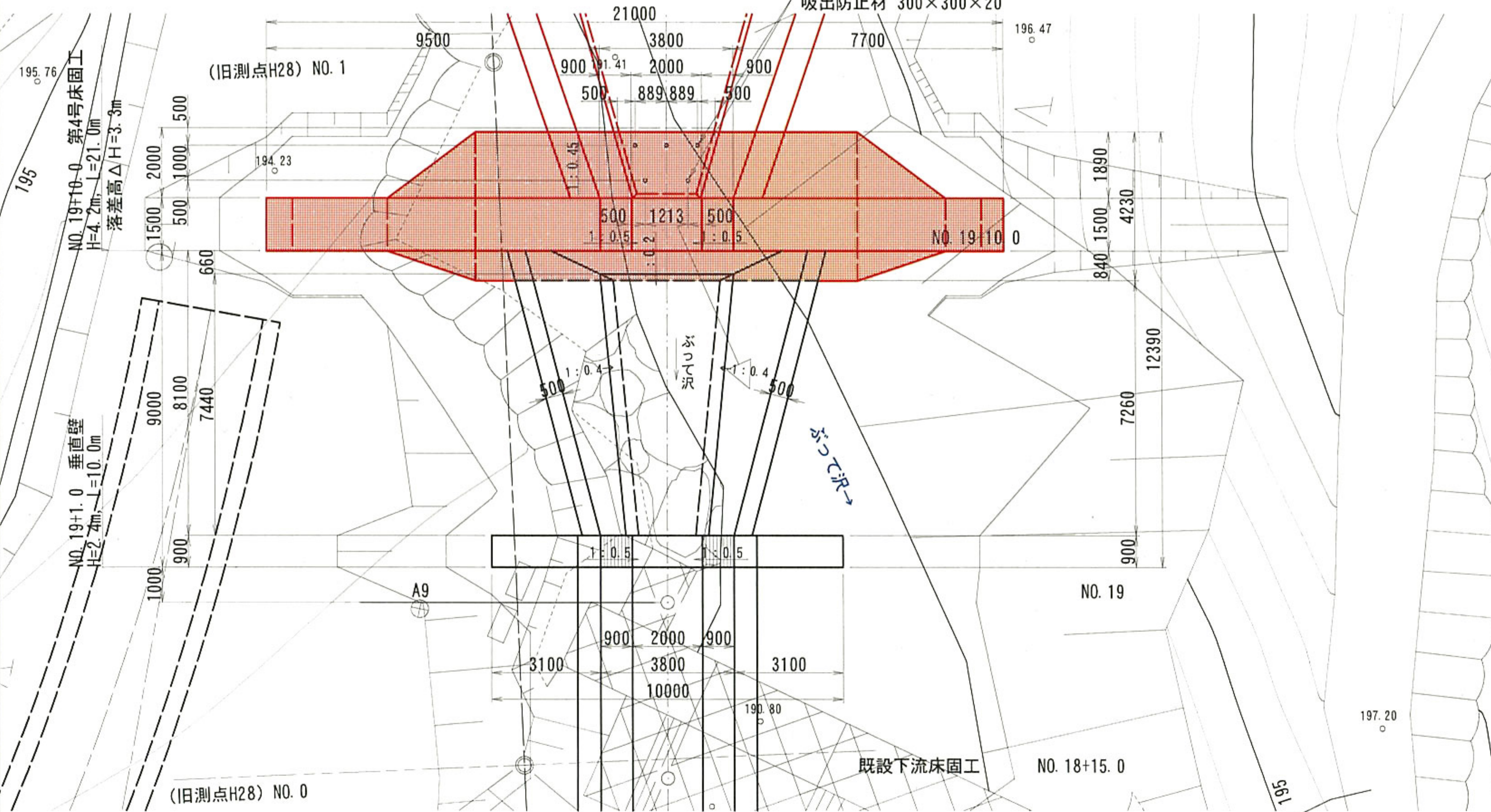
ぶって沢 第4号床固工 構造一般図 S=1:100

床固工正面図

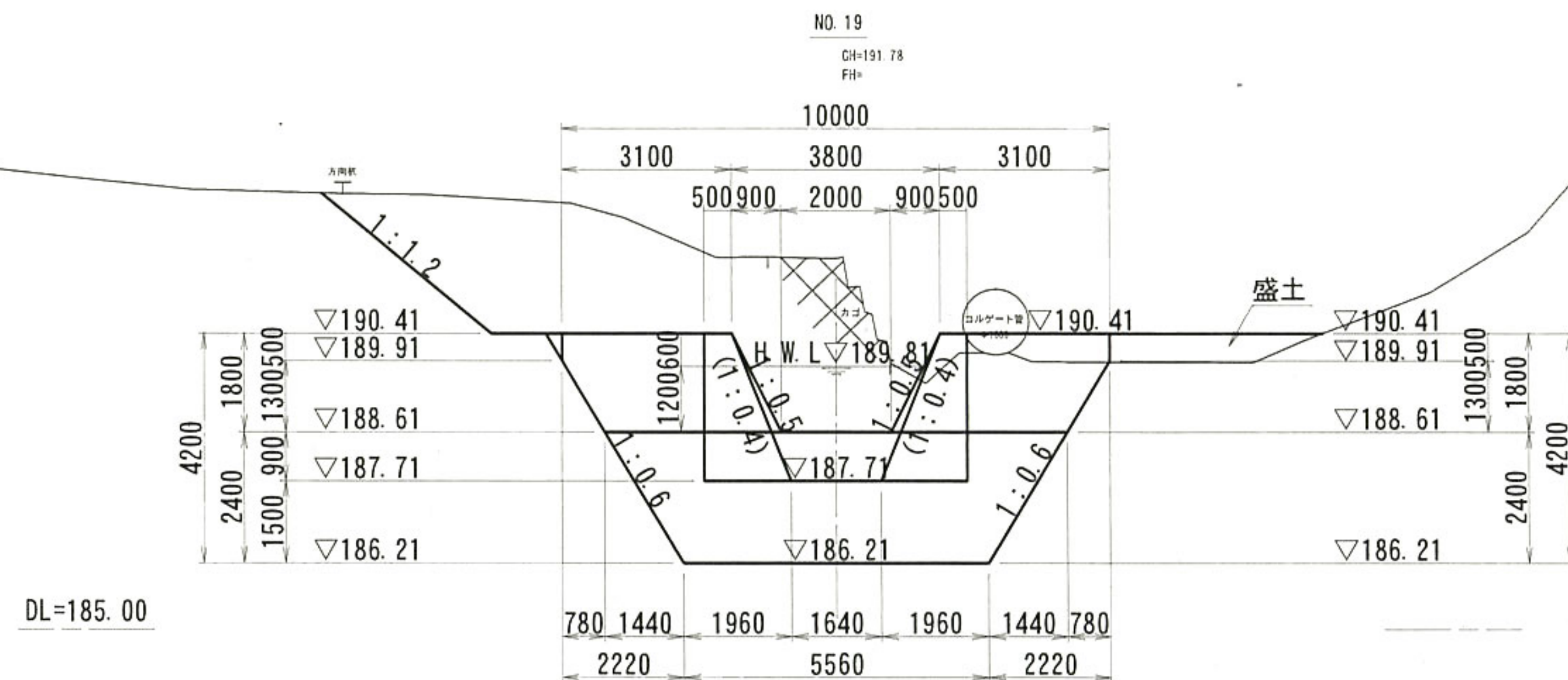


(NO. 19+10.0)

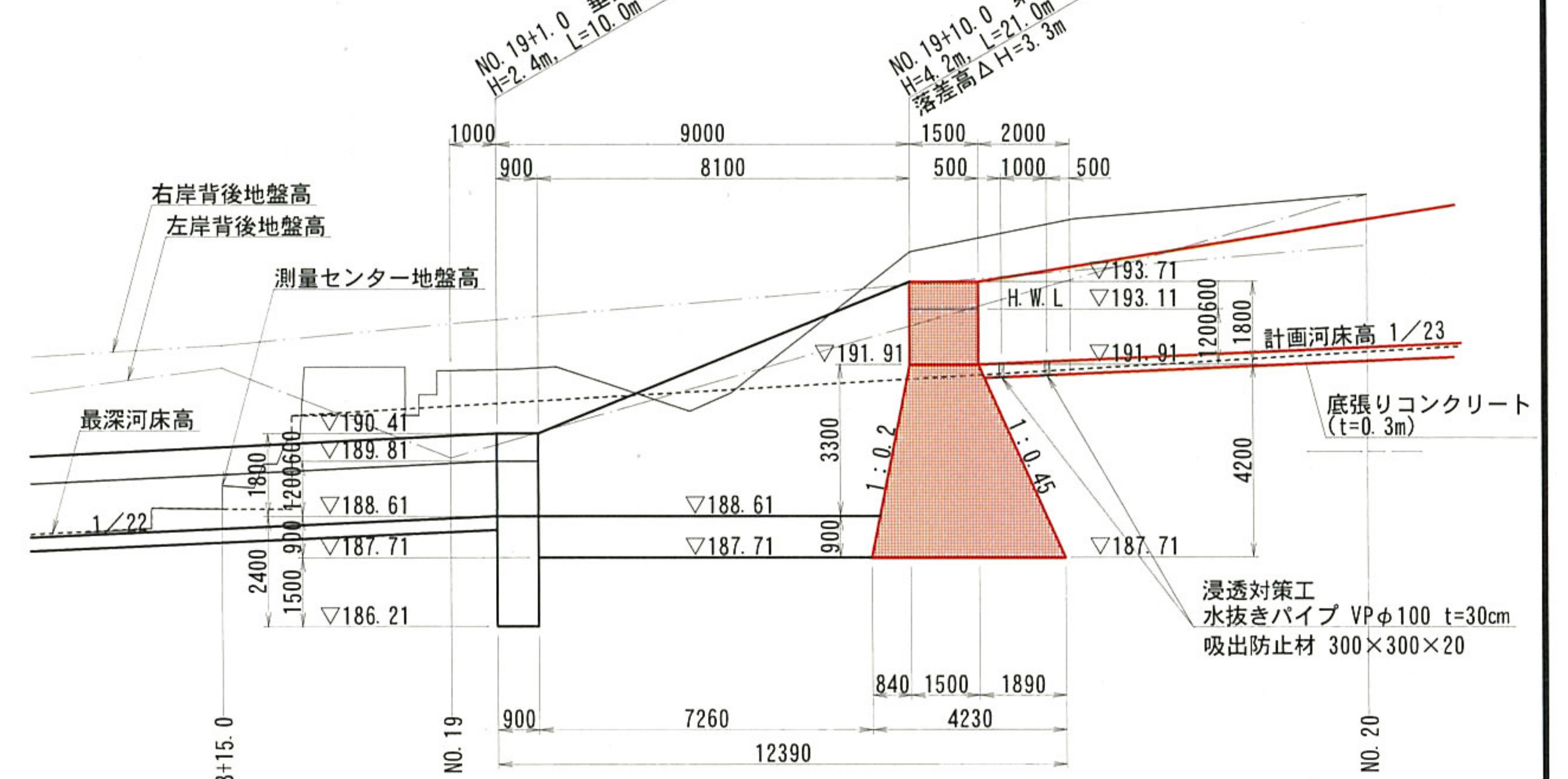
平面図



垂直壁正面図



側面図



・水叩き厚 t
 ここで、 $H1$ =落差高である。
 $H1 < 1.0m$: $t = 0.6m$
 $H1 \leq 2.0m$: $t = 0.7m$
 $H1 > 2.0m$: $t = 0.8m$ →適用 } ただし、水深 ($h3$) 2.0m以下の場合とする。

水深 ($h3$) 2.0~3.0mの場合は0.1mプラス
 水深 ($h3$) 3.0m以上の場合は0.2mプラス
 土砂混入率10%以上の場合は、0.1mプラス →適用

水叩き厚 $t = 0.8 + 0.1 = 0.9m$

・水叩き長さ L
 $L = (2 \sim 3) \times (H1 + h3)$
 ここで、 $H1$ =落差高、 $h3$ =越流水深であり、係数は2を標準とする。

水叩き長さ $L = 2 \times (3.3 + 1.2) = 9.0m$

《留意事項》
 (※1) 斜面掘削施工後には仮設時の法面保護を目的として、斜面上に土木養生シート等を設置する事が望ましい。
 (※2) 掘削施工の結果、地質分布状況が設計段階での想定と相違している場合には、監督員と協議の上で、地質状況に応じて根入や構造変更等に関して適宜に見直しに対処する事が望ましい。
 (※3) 掘削土砂の大半が軟質な砂混じり礫 (Ag)、シルト質細粒砂 (Ds) の土砂であり、埋戻し材として不適当となる場合がある。但し、施工者及び監督員との協議により、掘削土が埋戻し材として適当であると判断され、転用可能な場合にはこの限りではない。
 (※4) 床固工築造時は、各施設位置で平板載荷試験を行い、基礎地盤の許容支持力を確認した上で施工を行う事。各堰堤の許容支持力は計算結果より安全側の値を考慮して第4号床固工180kN/m²とする。